



須田っ子

第9号

学校教育目標「進んで心やからだをすこやかにする子」SA・SU・CA・DA

生命(いのち)の安全教育

校長

令和2年6月11日の「性犯罪・性暴力対策強化のための関係府省会議」において、性犯罪・性暴力対策の強化の方針が決定されました。そして、それを踏まえ、子供たちが性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないよう、学校において「生命(いのち)の安全教育」を推進することとなり、文部科学省と内閣府が連携し、有識者の意見も踏まえ、生命(いのち)の安全教育のための教材及び指導の手引きを作成しました。

その教材については、文部科学省のホームページに載っていますので、ご覧ください。

(https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index.html)

さて、水泳シーズンが始まる前に、全校の子供たちに、パワーポイント資料を使って、「知ってほしいこと考えてほしいこと」として、次のような話をしました。

- ・「自分の身体」も「他の人の身体」も大切
- ・自分だけの大切なところ
- ・自分と他の人を守るためのルール
- ・自分の大切なところに、誰かがさわってきたら、どうする？
- ・自分と他の人との距離感が守られないときの対応方法
- ・SNSを使うときに気を付けること

(パワーポイント資料より一部抜粋)

水ぎでかくれるところは
じぶんだけの
たいせつなところだからだよ

水ぎでかくれるところは、
ほかの人に見せたり、さわらせたり
しないようにしましょう

ほかの人の水ぎでかくれるところ
もたいせつで、見たり、
さわったりしないようにしましょう

じぶんだけのたいせつなところを
さわられていやなきもちになったら、
「いやだ!」といおう。にげよう。
あんしんできる大人におはなししよう。

ご家庭でも、上のようなことについて、ぜひ話をしてみてください。
なお、「人のズボンやパンツを下ろした場合は、いじめとして対応する」という話をしましたので、そちらについてもぜひご家庭でご指導ください。

依存症について考える

「ゲームなど、決められた時間でやめられないのは、依存症になっている可能性があり、ゲームをしているというよりも、ゲームにさせられている状態である」

以前にも子供たちに話をしましたが、夏休み前なので、もう一度繰り返し話しました。

新潟日報で依存症を考える第3部に、長岡赤十字病院の前小児科部長さんが、2019年に県内のある市内の小中学校を対象にアンケート調査を実施したところ、全体で平均9.2%が「ゲーム障害（依存）」の恐れありという結果が出たと載っていました。

また、NHKの「きょうの健康」でも、ゲーム障害について以下のように取り上げています。

※ゲーム障害は、ゲームに熱中し、利用時間などを自分でコントロールできなくなり、日常生活に支障が出る病気です。WHO（世界保健機関）では新たな病気として2019年5月に国際疾病分類に加えました。

未成年者では、前頭前野（「理性」をつかさどる）の働きが十分に発達していないため、ゲーム障害が起こりやすく、将来にわたって影響が続く可能性があると考えられています。

ゲーム障害は誰にでも起こる可能性がある病気です。そのため、ゲーム障害の兆候を知り、早めに気付くことが大切です。次の項目がゲーム障害の8つの兆候です。

- ①ゲームをする時間がかかり長くなった
- ②夜中までゲームを続ける
- ③朝起きられない
- ④絶えずゲームのことを気にしている
- ⑤ほかのことに興味を示さない
- ⑥ゲームのことを注意すると激しく怒る
- ⑦使用時間や内容などについて嘘をつく
- ⑧ゲームへの課金が多い

これらの兆候が見受けられる場合は、まず注意することが大切です。注意をすることで、ゲームの時間が減ったり、やめることができたりすれば、あまり問題はありません。しかし、注意してもゲームをする時間が減らない場合は、ゲーム障害が疑われます。

子供のゲーム障害を予防する方法として、まず有効なのがゲームを始める年齢を遅くすることです。すでにゲームを始めている場合は、1日のゲームをしてもいい時間やゲームができる時間帯・場所を明確に決めることが有効です。その際、紙にかいて部屋に貼っておくこと、子供の意向も取り入れることが大切です。また、ゲーム以外のリアルの生活を充実させることでも、ゲーム障害を予防できるといわれています。

ゲーム障害の兆候に気づいたり、ゲームによる問題が起きたりした時は、家族だけで解決しようせず、医療機関や外部の方に支援をもとめることが大切です。

ゲームは楽しむもの。それは、自分でコントロールできる状態だからです。夏休み中に、子供たちがゲーム障害への一歩を踏み出さないように、よろしくお願いします。

7 / 1 (木) 科学研究講習会を実施しました



加茂地区理科教育センターの先生をお招きして、夏休みの科学研究の進め方について、子供たちに話をさせていただきました。話だけでなく、実際に道具などを使って、楽しく科学研究が進められることを子供たちに実感させていただきました。

夏休み明け、子供たちがどのような科学研究に取り組んで成果を見せてくれるか楽しみにしています。